

MURAKAMI EYE CLINIC



むらかみ眼科 だより NO.10 2005.夏



m

みなさまの眼と健康を考える

眼病の早期発見・治療のために解説書「眼の成人病」を出版

これまで、眼科医となつて以来、臨床の最前線で日々多くの症例に接する医療に精進して早や二十余年が過ぎました。すでにこれまで、十万名を超える患者様の外来診療、白内障(眼内レンズ)及び眼瞼の手術、あるいは眼底疾患や緑内障へのレーザー光凝固治療に日々邁進し、これらの眼病に悩む患者様の病状の改善と視覚障害の防止に微力ながら努力して参りました。

しかし、日々の眼科診療の中でいつも痛感するのが、「予防と早期治療に勝る名医なし」の名言の通り、予防と早期発見・早期治療の重要性です。特に高齢者の方の眼病として、視覚障害の主座を占める「糖尿病性網膜症」、「緑内障」、「加齢黄斑変性」、「白内障」などの眼の成人病においても、早期発見・早期治療とその継続により、失明が回避可能となったのです。

そこで、現在激増しつつあるこれらの「眼の成人病」が少しでも重くなる前の早期発見・早期治療のための啓蒙活動の重要性を痛感するようになりしました。このため、これまでも健康セミナーや新聞、雑誌、テレビなどでの「眼のお話」による解り易い解説で眼病の啓蒙にも努めて参りました。そしてこの度、日本の眼科病院として最も権威と歴史のある東京・井上眼科病院の理事長で恩師の井上治郎博士(前日本眼科医会副会長)と共著で、一般の方向けの眼病の解説書「眼の成人病」を執筆し、今冬にも出版の運びとなりました。私の担当として、中高年者に激増しつつある眼の成人病である「白内障」、「糖尿病性網膜症」、

「加齢黄斑変性」と「レーザー光凝固治療」、さらに「眼の成人病を予防するための生活習慣と栄養食」についての項目を執筆致しました。

すなわち、この様な眼病を「ケガ」に例えれば、「ケガをしないため度に近い」ように、また度から落ちかけている方が「少しでも早く気付いて、ケガを致命傷にしない」ためにという一念で、日々の診療後に、深夜や早期にも執筆を重ねて参りました。

一方、医学会の専門医認定においても、現在まで日本眼科学会専門医に加え、日本東洋医学会専門医の認定も拝受し、各専門医の称号を授けられました。本年6月には京都での日本抗加齢医学会の専門医試験を受験致し、抗加齢医学専門医の認定も予定しています。

今後、急速に進む超高齢化時代において、眼を身体の一部として、眼を全身と共に診ながら、広い視野に立って眼の病気を治療していくことが重要であり、かつ、より新しい視点からも治療を行えるメリットと患者様への福音を確信し、抗加齢医学の勉強にも日夜励んでいます。

このため、現在でも、休日も県立図書館に通いながら、本の執筆に加え、医学書や文献と格闘しながら勉強と研鑽に励んでいます。

今後当院に足を運んでいただく患者様に少しでもお役に立ち、病気が少しでも治癒に向い、また、眼と心も癒されますように、そして患者様と共に歩み、共に喜ぶために、日々努力を続けて参る所存であります。

むらかみ眼科クリニック院長 医学博士 村上 茂樹

白内障・緑内障の相談
アレルギー性眼症状・
ドライアイの相談
糖尿病・高血圧眼科の相談
近視・遠視・乱視の相談